

まちのわだい



TOWN TOPICS

まちのわだい募集

【問合せ先】
地域再生戦略課
町づくり推進室
☎68-3113

県内初二部地区で新たな取り組みがスタート 「共生の里づくり事業」調印式

農村地域と企業が特産品開発などで連携し、地域活性化を目指す「共生の里づくり事業」の調印式が、7月6日二部公民館で行なわれました。

共生の里づくり事業は、遊休農地や担い手不足など多くの問題を抱える農村と、それを解決するノウハウを持つ企業がパートナーとなり、互いの活性化につながる取り組みです。

この調印式には、二部地区活性化推進機構の住田泰会長、東亜青果(米子市米原)の秦野一憲社長、鳥取県知事、伯耆町長が出席し、鳥取県内初となる協定を結びました。

今回の協定期間は2年間で、研究会の設置や二部地区の特性を生かした商品の開発などを行なう予定です。



協定書に調印した(右から)平井知事、秦野社長、住田会長、森安町長

園庭を芝生に 「グラウンド芝生化事業」

子どもたちに芝生の上で遊ぶ楽しさを体験してほしいと、6月20日と27日に町内各保育所で、園庭への芝植えを行いました。

この日は、芝生化を推進するNPO法人グリーンスポーツ鳥取のメンバーが保育所を訪れ、保護者や園児らに植え方を指導しました。

参加者は、『ティフトン419』というスポーツ芝のポット苗を、50cm間隔で植えていきました。この芝は、3ヶ月程度で園庭一面に定着するそうです。

今後は、水やりや芝刈りなどを保護者たちが行う予定です。



芝植えをする親子

日頃の練習の成果を 「西部地区消防ポンプ操法大会」

第52回鳥取県西部地区消防ポンプ操法大会が、7月4日米子市流通町の鳥取県消防学校屋外訓練場において実施されました。

この大会は、消防団員の技術の向上と士気の高揚を図り、消防活動の進歩充実に寄与することを目的に、毎年実施されています。

今年も鳥取県西部の各町村から8チームが出場。伯耆町からは、第1分団がポンプ車の部に、第5分団が小型ポンプの部に出場しました。

結果は、第1分団が8位、第5分団が1位でした。



ポンプ車の部に出場した第1分団の演技

西伯郡内の各町村から150人が参加 「第60回『社会を明るくする運動』 西伯郡研究大会」

第60回『社会を明るくする運動』西伯郡研究大会が、7月6日溝口公民館で開催されました。

『社会を明るくする運動』は、すべての国民が犯罪や非行の防止と、罪を犯した人たちの更生について理解を深め、それぞれの立場において力を合わせ犯罪や非行のない地域社会を築こうとする全国的な運動です。

この日は、倉吉市の倉明園 施設長 大塩孝江 氏の講演や西伯更生保護女性会の合唱、溝口小学校5年生児童によるモジュール学習発表などがあり、それぞれの立場で明るい社会づくりの理解を深めました。



西伯更生保護女性会による合唱

親子で楽しい時間を 「伯耆町子育て交流会」

地域ぐるみの子育て支援を推進する一環として、伯耆町子育て交流会が7月3日 岸本保健福祉センターで開催されました。

この交流会は、子育て支援センターを中心に育児サークルなどの協力を得ながら実施したもので、親子36名が参加しました。ペットボトルを使ったおもちゃ作りに挑戦したり、七夕の短冊に願い事を書いたり、七夕の歌をうたったりと、親子で楽しい時間を過ごしました。

また、伯耆町食生活改善推進協議会から手作りのおやつ試食会もありました。

この交流会は、これからも毎年1回開催される予定です。



短冊に願い事を書く子どもたち

八郷のスイカ初出荷 「おいしいスイカが できました」

伯耆町の特産品『スイカ』が6月25日に初出荷を迎えました。

今年は、春先の天候不順で生育が遅れ、玉太りや糖度などが心配されましたが、23日に行なわれた査定会において問題ないことが確認され、初出荷に至りました。

この日は、2軒の農家で生産された300個のスイカが出荷されました。スイカを叩いた音や大きさ、形、縞模様につき方などにより等級別に分けられた後、箱詰めされ、広島県の青果会社に出荷されました。スイカの出荷作業は、8月まで続く予定です。



色や形、果肉の状態を確認する様子(査定会)



初出荷を迎えたスイカ